

## 式 辞

春の日差しが暖かさともるさを増し、学校にある木々の芽も大きく膨らんできました。ここ桑野の地にも希望に満ちた輝かしい春が訪れました。

本日、生活環境部次長 渡部 義弘様、市議会議員 栗原 晃様を初め、多くのご来賓の皆様、保護者の皆様に見守られ、盛大に卒業式が挙行できますことを心より感謝申し上げます。

卒業証書を手にしたみなさんは、今、どのような気持ちでいますか。そして、皆さんの心の中にはどのような思い出が浮かんでいますか。

私にとって忘れることのできない思い出は、創立50周年記念行事です。6年生のみなさんが中心となり、マスコットキャラクターのクワッピーJrやPRビデオ、そして、ビッグアートもつくり、自分達の記念行事を大いに盛り上げました。

市内水泳交歓会での男子200メートルリレーでは、タッチの差で惜しくも4位。メダル獲得がかなわず悔し涙を流したこともありました。

市合唱祭では、見事金賞。そして、県大会への出場。市文化センター大ホールで鑑賞していた方々へ、透き通ったきれいな歌声を届け、感動を与えました。歌い終わってホールの外で合唱部の子どもたち全員で涙した姿に周りの人達は、心を揺り動かされました。

このように、皆さんは、桑野小学校の頼れるリーダーとして、下級生からのあこがれの先輩として、その務めを見事に果たしてきました。

さて、7年前の東日本大震災の後に、被災地を中心に注目された本があります。その本は、「夜と霧」という題名です。作者は、第二次世界大戦の時、ナチスの強制収容所に入れられたユダヤ人で、奇跡的に生き残ることのできた精神科医のビクトール・フランクルです。どんなに絶望的な状況の中でも、必ず希望は見つめられるという力強いメッセージは、被災地の人達だけでなく、私たちにも勇気を与えてくれます。フランクルは、次の言葉を残しています。

「どんな時も、人生には意味がある」

「あなたを待っている『誰か』がいて、あなたを待っている『何か』がある。」

「そして、その『何か』や『誰か』のために、あなたにもできることがある」と。

皆さんにも、大きな喜びを感じたことや、友達とけんかしてつらい思いをしたことも、努力したのにより結果がでなかったこともあったことでしょうか。つらいことがあっても、希望をもつことはできますし、誰でも誰かの役に立ったり、社会の役に立ったりすることができます。

私は みなさんの未来を信じています。みなさんは、校長室で一緒に給食を食べながら、将来の夢や目標を語ってくれました。やがて社会に出たときに、豊かな人生を歩み、これからのふくしま、そして、日本に貢献する人になることを心から願っています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。4月から子どもたちはよいよ中学生です。人生の中で最も多感な時期を迎え、少しずつ親の手を離れていきます。しかし、いくつになっても家庭は心の支えであり、居場所です。保護者の皆様には、これまで同様、子どもたちのよき理解者として、人生の先輩として子どもたちを支え、導いて行って頂きたいと思います。

ご来賓の皆様方、本日はお忙しい中を、ご臨席くださり、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。結びになりますが、さらなる成長を続ける子どもたちの健やかな成長とこれからの活躍をお祈り申し上げます。併せて、ご臨席をいただきました皆様方のご健勝とご多幸を祈念しまして、式辞といたします。

平成30年3月23日 郡山市立桑野小学校長 吾妻 敦